

国語 第4学年 理由や例を挙げて、考えを書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第4学年下巻に載っている書くことの教材。単元名と配当時は光村図書の年間指導計画例（12月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（B(1)ウ・〔知識及び技能〕(2)ア）と言語活動（B(2)ア）を扱う、調べて考えを書く単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、自然災害への備えについて本や資料で調べたことから、自分の考えを一つに決め、その理由と、理由を裏付ける事例を選んで、考え・理由・事例の関係が分かる文章を書ける。引用した所はかぎで示し、参考にした本や資料を文章の最後にかける。友達の文章を読んで、理由や事例の挙げ方のよい所を言えるようになる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)ウ	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)ア	ア 相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)イ	イ 書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(1)オ	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。
〔第3学年及び第4学年〕B 書くこと(2)ア	ア 調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(i)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1)イ	イ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句については、辞書や事典を利用して調べる活動を取り入れるなど、調べる習慣が身に付くようにすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

考えと理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係が分かり、引用の仕方や出典の示し方を知って使う（(2)ア・イ）。相手や目的を意識して、調べたことから書くことを選び、自分の考えと理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する（B(1)ア・ウ）。言葉がもつよさに気付き、調べて考えたことを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ②引用の仕方や出典の示し方を理解し使っている。((2)イ)	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①理由や事例が自分の考えに合っているかを粘り強く確かめ、学習の見通しをもって、調べて考えたことを文章に書こうとしている。

単元の流れ

全10時間（書くこと10時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（4年）が、この単元を書くこと10時間を配当している（12月）。次ごとの内訳（1・8・1）はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領は第3学年及び第4学年の書くことに年間85単位時間程度を配当するとしている（第3の1(5)）。国語の標準授業時数は第4学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○自然災害（大雨・台風・地震・津波など）への備えについて、知っていることや家でしていることを出し合う。 ○学習課題「理由や事例を挙げて、もしもの時の備えについての考えを書こう」を立て、学習計画を立てる。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○大きなテーマを一つ選び、その中で詳しく知りたいことを決める。 ○調べる物（本・事典・市町のハザードマップや防災の手引き・インターネット）を確かめる。	
	3	○本や資料、インターネットで調べて、一枚に一つずつカードに書く。カードには本の題名や資料を作った所を書く。	知②（調べたカード）
	4	○カードを仲間分けし、「もしもの時に備えて、…が大切だ」という自分の考えを決める。 ○考えの理由と、理由を裏付ける事例をカードから選ぶ。	知①（カードの仲間分け・ノート）
	5	○文章の例（先生が教科書から示す）を読み、考え・理由・事例がどこに、どんな言葉で書かれているかを見付ける。	知①（ノート）
	6	○組み立てメモを作る（初め＝自分の考え、中＝理由と事例、終わり＝まとめと考え）。	
	7 （本時）	○組み立てメモの理由と事例が考えに合っているかをペアで確かめて直し、中の段落を書く。	思①（組み立てメモ・下書き）
	8	○初めと終わりの段落を書き、文章を仕上げる。本の言葉をそのまま使った所はかぎ（「」）で示し、最後に参考にした本や資料を書く。	知②（文章） 思①（文章）
	9	○書いた文章を読み返し、理由と事例のつながりや、字や言葉の間違いを確かめて整える。	態①（読み返しの記録）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	10	○文章を読み合い、理由や事例の挙げ方について感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：組み立てメモの理由と事例が自分の考えに合っているかを確かめて直し、考えと理由や事例との関係が分かるように中の段落を書ける。(B(1)ウ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に作った組み立てメモを見て、自分の考えを一文で言う。 2 先生が作った二つの短い文章を比べる。 ○「AとBでは、どちらの文章の考えに納得できますか。それはなぜですか」 【めあて】理由や事例が考えに合っているかを確かめて、中の段落を書こう。 〈予想される児童の反応〉 ・ Aは、理由の後に本当にあったことが書いてあるので納得できる。 ・ Bは、例が考えと関係のない話なので、どうしてそう言えるのか分からない。	・ 二つの文章は同じ考え（例：ひなんする場所を家族で決めておくことが大切だ）で、Aは理由に合う事例、Bは理由と関係の薄い事例を挙げた物を先生が作る。教科書の文章の例は使わない。 ・ 違いが言えない子には、事例の文に線を引かせ、「この例は、どの理由に合っているか」と聞く。
展開 (分)	3 自分の組み立てメモを見直す。 ○「あなたの事例は、どの理由に合っていますか。矢印で結んでみましょう」 4 ペアで組み立てメモを読み合い、理由と事例のつながり確かめ合う。 ○「この事例があると、どうして考えに納得できますか」 5 確かめたことを基に組み立てメモを直し、中の段落を書く。 (つなぐ言葉)「その理由は」「例えば」「このことから」 〈予想される児童の反応〉 ・ 理由一の「水や食べ物を用意しておく」には、調べたカードの、ひなんした時に水が足りなくて困った人の話が合う。 ・ 理由二に合う事例が見付からないので、カードをもう一度見る。 ・ ペアに「その例は理由二より理由一に合う」と言われたので入れかえた。 ・ 調べたことを全部書こうとしていたが、考えに関係のある所だけにした。	・ 組み立てメモの理由と事例の間に矢印をかかせ、結べない所に印を付けさせる。 ・ ペアでは、聞く側が「この例でどうして納得できるか」を一つ質問する決まりにする。 ・ 事例が足りない子は、第3時のカードに戻って選び直させる。カードに無い時は次時まで調べ足す。 ・ 書くのが苦手な子には、つなぐ言葉を入れた中の段落の型を渡す。 ・ 調べた本の言葉をそのまま使った所は、かぎ(「」)で示すことを確かめる((2)イ)。 ・ 端末で組み立てメモを作っている場合は、付箋を動かして理由と事例の組を作り直させる。 ・ 早く書き終えた子には、事例を二つ挙げて比べる書き方を考えさせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	6 書いた中の段落を読み返し、理由と事例が考えに合っているかを確かめる。 7 二、三人の段落を紹介し、事例の挙げ方のよい所を確かめる。 8 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・事例を一つ入れかえたら、考えがはっきりした。 ・「例えば」の後に、調べたことを短く書くと分かりやすい。	・紹介では、事例が理由を裏付けている所に線を引いて見せる。 ・振り返りは「理由と事例を結ぶために直した所」「次の時間に書くこと」の二つで書かせる。 ・次時は初めと終わりの段落を書き、参考にした本や資料を書くことを伝える。 ◎思① 考えと理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 (組み立てメモ・下書き)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、先生が作った二つの文章A・Bを拡大して並べて貼り、考え・理由・事例に色の違う線を引く。Aは理由と事例の間に矢印をかき、Bには結べない所に印を付ける。中央に、文章の組み立て（初め＝考え、中＝理由と事例、終わり＝まとめ）を三つの枠で右から順に示し、中の枠の中で理由と事例を矢印で結んだ形をかく。その左に、つなぐ言葉（その理由は・例えば・このことから）の短冊と、子どもが直した例。左端に、確かめの問い「この事例は、どの理由に合っているか」と、振り返りの観点二つ。

つまづきやすい所と手当て

つまづきやすい所は五つ。一つ目、調べたことを全部書こうとして、考えに関係のない事柄まで並べる。手当ては、考えを一文で書いた短冊を先に作り、それに関係するカードだけを選ばせること（(2)アの「全体と中心」）。二つ目、理由と事例の区別が付かない。手当ては、「なぜそう考えるか」を理由、「本当にあったことや調べて分かった事実」を事例とし、カードを色で分けて書かせること。三つ目、事例が理由と噛み合わない。手当ては、組み立てメモで理由と事例を矢印で結ばせ、結べない所をペアで確かめること（B(1)ウ）。四つ目、本の文をそのまま写し、どこから写したかを書かない。手当ては、そのまま使う所はかぎで示し、本の題名・書いた人・出版社や資料を作った所を書く決まりを、調べ始める第3時に示すこと（(2)イ）。五つ目、災害の写真や話で不安が強くなる子がいる。手当ては、事前に家庭や前の担任から子どもの経験を聞いておき、扱う資料を選ぶこと。学習の重点を「自分や家族ができる備え」に置くこと。

プリントの案

調べたことカード（単元を通して使う）

一枚に一つのことを書くカード。上に「調べたこと」の枠、下に「本の題名・書いた人・出版社（資料なら作った所、サイトなら名前と見た日）」の欄。理由に使うカードと事例に使うカードを色で分けて印刷する。〔知識及び技能〕(2)イの出典の示し方に合わせた。

考え・理由・事例の仕分け表

いちばん上に考えを一文で書く枠。その下に理由の枠を二つ並べ、それぞれの下に事例のカードを貼る場所を作る。どの理由にも入らないカードを置く「使わない」の枠も作る。〔知識及び技能〕(2)アに合わせた。

組み立てメモ

初め（自分の考え）、中（理由一と事例・理由二と事例）、終わり（まとめと考え）の枠。理由と事例の間に矢印をかく空きを取り、矢印の横に「この事例で納得できるわけ」を短く書く欄を付ける。B(1)ウに合わせた。

本時で比べる文章AとB（先生が作る）

同じ考えで、Aは理由に合う事例、Bは理由と関係の薄い事例を挙げた三、四文の短い文章。調べる材料に合わせて先生が作る。教科書の作例は使わない。

読み返しカードと読み合いカード

読み返しカードは「考えが初めと終わりに書いてある」「理由ごとに段落を分けた」「事例が理由に合っている」「そのまま使った言葉にかぎを付けた」「参考にした本や資料を書いた」の五つにチェックする欄。読み合いカードは「納得できた理由や事例」「もっと知りたいこと」の二つの欄。B(1)エ・オに合わせた。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、「書くこと」などの領域の書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 4年（Excel）「4年下巻」。単元名「理由や例を挙げて、考えを書こう」・教材名・書くこと10時間・12月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

